

# スポーツイベントと 持続可能性

SUSPON副代表、環境パートナーシップ会議副代表理事 星野 智子

## 東京2020大会における ボランティア活動の意義 活動体験が持続可能な社会づくりにつながる

### 東京2020大会をきっかけに ボランティアスタンダードを

「持続可能なスポーツイベントを実現するNGO/NPOネットワーク」(通称・SUSPON)には7つの部会があり、その1つにボランティア部会があります。

本部会は、各種イベントのボランティア活動をコーディネートしてきたNPOのリーダーを中心に構成されており、自分たちの経験を活かし、2020年に開催される東京五輪・パラリンピック(東京2020大会)が今

後の持続可能な社会をつくる好機になることを目指しています。

東京2020大会の会期中に国内外から東京を訪れる人は1000万人を超えると予測されており、大会運営に必要なボランティアは、会場周辺で観光案内などをする都市ボランティアも含めると11万人とも言われています。ボランティア活動を通じて持続可能な社会づくりの大切さに気づいてもらえればと、本部会では冊子「持続可能な未来をつくるボランティアのためのガイド」(写真1)を作成・発行しました。

### ボランティア活動の意義

本部会は、東京2020大会にボランティアとして関わることが、持続可能な明るい未来を共に作る学びの機会になることを願っています。これまでの本部会の活動を通じ、ボランティアが現場で経験したことや出会い、周囲とのコミュニケーション、現場で感じたことや思ったことは、ものの見方や考え方に影響を与えることが多く、行動変容を促すことが確認できたためです。

環境への配慮や、大会会場の内外で人々が笑顔になるような工夫を示すことで、環境は保全され、ボラン

ティア活動をする人やその周囲の人たちの意識も変わっていき、よりよい環境を保っていかこうとする気持ちが社会に広がっていくと思われます(写真2、写真3)。

各国が国連のSDGs(持続可能な開発目標)に取り組む中、東京2020大会には、持続可能性への配慮を最大化し、課題解決のモデルを国内外に示すことが求められています。

2030年までに世界が解決すべき課題と目標を定めたSDGsへの貢献は、東京2020大会組織委員会の運営計画にも明記されており、環境への配慮だけでなく、教育、福祉、ジェンダー、経済発展、格差などあらゆる分野のあり方が問われています。ボランティアがこのような認識を踏まえて活動することで、SDGs達成に寄与することができればと考えています。SDGsに取り組む主体としては、国家、自治体、企業、NGO、NPOなどがありますが、市民も重要な主体の1つです。

### ボランティアのやりがいと 価値

ボランティアの大きなメリットの1つは、活動を通じて社会が抱える課題について考え、行動する機会を



写真1 持続可能な未来をつくるボランティアのためのガイド



写真2 フジロックフェスティバルでのごみ分別・リサイクルのボランティア活動の様子 ©NPO 法人 iPledge



写真3 フジロックフェスティバルでは自然環境に配慮し、ボランティアが観客にごみを入れる袋を配布 ©NPO 法人 iPledge

得られることです。そのようなボランティア活動を多くの人が経験し、誰もが対等な参加型社会の形成や、人への思いやり、助け合いの精神が豊かに存在する社会を一緒につくる人が増えることを私たちは目指しています。

ボランティア活動を通じて出会った仲間と助け合ったり、問題が起きたときにどう克服するかを考え乗り越えたりした経験は自分の成長につながり、その後の人生に影響を与えることでしょう。何かをやり遂げた成功体験や達成感はやりがいと価値を感じる機会になるとともに、自信につながっていきます。

### 持続可能な未来をつくる ボランティアとは

東京2020大会でのボランティア活動の種類は、来場者の案内・誘導、通訳、警備や記録係の補助、ごみの分別・リサイクル、身障者のケアなど多様です。大変な混雑が予想される大会会場やその周辺でボランティア活動をスムーズに行うには、入念な行動計画、予習や研修、これらを行うリーダー、コーディネーターの存在が欠かせません。

SUSPONでボランティア部会を構成する団体は、主にイベント時のご

み対策やリユース食器の普及、自然保護活動などに従事していますが、活動の中身に関係なく、ボランティアを受け入れる際には大切なポイントがあります。前述した冊子「持続可能な未来をつくるボランティアのためのガイド」では、大切なポイントをチェックリストとして示しています。

- チェックリストには、例えば、以下のようなことが示されています。
- (1) 活動の意義や役割をボランティアの人に理解してもらう
  - (2) 気持ちよく活動してもらうための配慮(健康や飲食ケア)
  - (3) 自発性を引き出す
  - (4) チーム力を発揮する
  - (5) 成果を共有する
  - (6) 活動からの気づきを促す

また、ボランティアをする人に求める心がけとして、目的意識やホスピタリティの気持ちを持つこと、責任感を持つことなどを挙げています。

### 参加型・協働型の社会へ

すべての人が健康で平和、安全に暮らせる持続可能な社会になることは人類共通の願いです。しかし、それを誰かがやってくれると思って待っているだけでは、達成できませ

ん。また、地球温暖化や生態系破壊など社会の基盤にかかわる課題も山積しています。

ボランティア活動を通じて、自発性や積極性、協調性、コミュニケーション力などを培い、さまざまな社会課題を協力し合って解決しようとする人が増えていくことが期待されます。コミュニケーションを図り、情報や人材などの資源を持ち寄り、役割分担し、対等な立場で課題解決にのぞむパートナーシップ型の社会がより求められていきます。また、SDGsが理念として掲げている「誰一人取り残さない」を実現するには、市民の声をしっかり反映させることも必要です。

このような社会を実現するためにも“持続可能な未来をつくるボランティア”の存在がますます必要になっていくでしょう。1人でも多くの人が、ボランティア活動に関わり、持続可能な社会づくりにつながることを望んでいます。

◇ ◇

冊子「持続可能な未来をつくるボランティアのためのガイド」は、SUSPONのホームページ ([https://suspon.net/activities/wg\\_volunteer/volunteerguide/](https://suspon.net/activities/wg_volunteer/volunteerguide/))からPDFファイル版をダウンロードできます。E